

令和6年度第2回広島の拠点性強化に向けた懇話会ワーキンググループ会議 開催記録

1 開催日時

令和6年11月25日（月）14:00～15:40

2 開催場所

広島市役所 本庁舎14階 第7会議室

3 出席委員（順不同・敬称略）

宮地 宏	中国経済連合会常務理事
村上 英之	広島経済同友会常任幹事
津賀 一弘	広島大学理事・副学長
大芝 亮	広島市立大学広島平和研究所所長
家尾谷 成宏	(株)広島銀行公務営業室長
松本 智寛	(株)もみじ銀行営業統括部長
有賀 正宏	(株)日本政策投資銀行中国支店支店長
梅木 達也	(株)日本政策金融公庫広島支店筆頭副事業統轄（田中裕之支店長の代理出席）
武市 浩二	連合広島西部地域協議会事務局長
脇谷 直子	広島市情報政策アドバイザーリーボード委員（広島修道大学教授）
阪谷 幸春	広島市企画総務局長

4 議事内容

- ・ 第3期「世界に誇れる『まち』広島」創生総合戦略の策定

5 主な意見等

(1) 地域総出のまちづくりについて

- ・ 広島の特性・特徴を活かしつつ、働く場の確保と働きやすい環境づくりを進めることで、大学生が転出していくことを防ぐ、一度転出した若者が戻ってくるといったことにつながるのではないかな。
- ・ 転出超過への対策としては、広島から出て行く人を少なくする、一度出ていった人にいずれ帰ってきてもらうということが王道だと思うが、二拠点生活を希望する人に来てもらうという視点も補足的にあっているのではないかな。

(2) DXの加速化について

- ・ DXの加速化のうち、行政のデジタル化については、デジタル機器の導入はもちろん大事だが、それに加えて、アナログ規制の見直しを行い、古い制度を廃止するような取組も必要ではないかな。
- ・ DXの加速化は、行政サービスの効率化や向上を下支えするためのものだと思うが、単に電子化を図るというのではなく、その先の新たなサ

ービスや価値の創出まで目指してほしい。

- ・ 第2期総合戦略と比較すると、第3期総合戦略はだいぶブラッシュアップされていると感じており、例えばDXを進める際には、それを利用できない人に対してもっと配慮すべきといった意見が必ず出ると思うが、あまりそれをしてしまうと物事が前に進まなくなるため、自信をもって推進していくことも大事だと思う。

(3) 計画の推進について

- ・ KPIについて、市民意識調査で測ることももちろん大事だが、それに加えて、客観的なデータを使って評価することでもっと良くなるのではないか。また、それを年1回ではなく定期的実施することで取組の前倒しなども進められるのではないか。
- ・ 計画の中でKPIを設定し、それを達成していくことは重要であるが、それを広島市だけでやろうとするのではなく、民間企業や近隣市町と連携して達成していくことも重要ではないか。
- ・ 本来は計画を作ることが目的ではなく、その計画により何を実現するかが重要であるため、PDCAなどによって、運用面にもしっかりと取り組んでもらいたい。

(4) その他

- ・ この総合戦略をどのように打ち出していくかが重要ではないか。
- ・ 「世界に輝く平和のまち」の実現について、まずは広島のまちが繁栄してこそ、世界に平和の重要性をアピールできるのではないかと考えており、現在、それを一番脅かしているのは、豪雨災害や南海トラフ地震といった自然災害ではないかと思う。広島がそうした災害にしっかり備えをし、それをアピールしていくことで、人々は安心して住み続けられる、将来このまちに戻ってきたいと思ってもらえるのではないか。
- ・ 市民の身の回りの平和（犯罪の起こりにくいまちづくり、DVの根絶やジェンダー平等など）にも気を配り、市民が安心して暮らせるまちにも力を入れていく必要があるのではないか。
- ・ 平和首長会議の加盟都市数が増えていることはすごいことだと感じているが、それがどのようなインパクトを持つのか、市民に分かりやすく示す必要があるのではないか。